

## 後期日程

令和2年度入学試験問題（後期日程）

# 小論文

教育学部  
学校教育課程  
小中連携教育コース

### — 解答上の注意事項 —

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙1枚と下書き用紙1枚がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

【問】 教育において、児童生徒やその家庭に関する個人情報は、適切かつ効果的な指導を行なうために有用なものです。他方で、プライバシー保護の観点から、必要以上の個人情報を収集したり公開したりしないように慎重な配慮も求められます。こうした観点を踏まえ、右記の文章を参考にして、教育と個人情報の関係に関するあなたの考えを、800字以内で述べなさい。

おうちの人と背中を洗い合う。身近な人の職業についてインタビューする。公立小中学校の長期休暇中に出たこんな宿題に対して、保護者から賛否の声が上がっている。学校側が「よかれ」と思って出したとしても、様々な家庭環境の子どもがいるなか、望ましい親子関係のあり方を押しつける恐れもある、と識者は指摘する。

「ハグをする」「手をつないで歩く」「背中を洗い合う」……。東京都内の母親（46）は昨年7月、公立小学校4年の息子が持ち帰った一覧表を見て驚いた。

「おうちの人と一緒に、ふだんできないことをやってみよう」と挙げられた40近い項目から10個以上を選んで、できたことをチェックするという夏休みの宿題。末尾には、保護者の感想も求められていた。

これまで、夏休みの宿題として定番の国語や算数ドリル、読書感想文などもあったが、親子で一緒にすることを求める宿題は初めてだった。教科になったばかりの道徳の評価のための宿題なのだろうか。だが、ひとり親など様々な家庭がある中で、全ての家庭が取り組める課題ではない、と感じた。

「スキンシップなど親子の関わり方について学校が口を出すのはおかしい。夏休みだから、『外で遊ぼう』など子ども自身が普段できないことをやってみましょう、なら理解できるのですが……」

結局、一覧表の中から「洗濯物をたたむ」など、日頃から子どもが取り組んでいる項目を選び、宿題への疑問を伝える感想を書いて提出したという。

宿題をめぐるのは、家庭のプライバシーがさらされることを心配する保護者もいる。

名古屋市の50代の母親は、市立中学校2年の長男の夏休みの宿題に疑問を抱いた。内容は「身近な人への職業インタビュー」。「家族、親戚、知り合いの方に協力をさせていただこう」との記述がある。さらに、学歴や、その仕事に必要な資質、アドバイスを書く欄もあった。

夫は技術系の研究職で、社外秘の仕事内容もある。差し障りのない範囲で書いて出したところ、長男は担任から「もっと詳しく書いて」と言われたという。

1年のとき、子どもが「災害体験」をつづる学習があり、各教室の廊下に全員の作品が掲示されたことを思い出した。

「職業インタビューでは、ほとんどの子が親に聞くはず。親の職業というプライバシーがさらされるのでは」。教頭に懸念を伝えたところ、インタビュー相手の名前が黒塗りされた上で、廊下の見えにくい場所に掲示されたという。

「子どもとお出かけ情報サイト『いこーよ』が昨年6月から7月にかけて、全国の小学生の子どもを持つ保護者152人を対象に夏休みの宿題の内容について尋ねたところ、問題集、ワーク、ドリルなどが9割近くと最も多かったが、「家の手伝い」も50%あった。また、自由研究や工作では8割の保護者が手伝っていた。

自由回答の中には「思い出になるのは、いっしょにしてあげることかなあとと思います」という意見もあり、親子参加型の宿題を肯定的にとらえる保護者も少なくない。

（後略）

【出典】朝日新聞2019年3月19日（\*出題に際して、見出しを割愛した上で、一部を抜粋している）